

2015年 日本地理学会春季学術大会 公開シンポジウム

はたらく地理学 ―防災分野における地理学出身者の活躍と課題―

実社会における地理学履修者の進路と実務地理関係者の活動実態

戸所 隆（高崎経済大）

地域調査士制度準備のために実施した実務地理関係者へのアンケートの調査結果が紹介されました。大学で学んだ地理学的手法の中でも特に「報告書を作成する能力」、「地図の読み取り、地図表現に関するスキル」が多く現業に活用されています。一方、今後の課題の項目では「地理学者・地理学徒が地理学の有用性を企業や社会に対して明確に情報発信していない」、「カリキュラムが実務地理関係者のニーズや社会の要請に合致していない」などの回答がありました。



「帰宅支援マップ」のできるまで ―地理学出身者の地図出版社での仕事紹介―

宇田川友道（株式会社昭文社）

2009年に早稲田大学教育学部を卒業し同年4月に昭文社に入社しました。会社では出版編集部に所属し、帰宅支援マップなど多数の商品に携わりました。地理学で学んだフィールドワーク、地図表現、地形図読図などの技術が、地図の編集・出版の現場でも役立っています。



自然災害という地域特性：災害事例の収集と発信

鈴木比奈子（防災科学技術研究所自然災害情報室）

2009年専修大学大学院在籍中に防災科学技術研究所に入所しました。職場では、災害資料の収集・整理・発信の業務を行っています。地理学出身者は、「地域」を主体として物事をとらえ、「多角的な視点」で物事を考えることができるので、社会へ出てから分野を限らず活躍することができるでしょう。



空間情報コンサルタント業界における防災分野への地理学活用事例

竹島彰子（国際航業株式会社）

2008年に奈良女子大学文学部を卒業しました。同年国際航業に就職し、空間情報コンサルタントとして、災害対応業務を行っています。空中写真判読や地図表現の基礎的技術は大いに役立っています。業務を通じて、人文社会的な側面を含む地理学の多角的視野が活用できることを実感しています。



消防・防災分野での地理学の役割と期待

齋藤健一（総務省消防庁防災情報室）

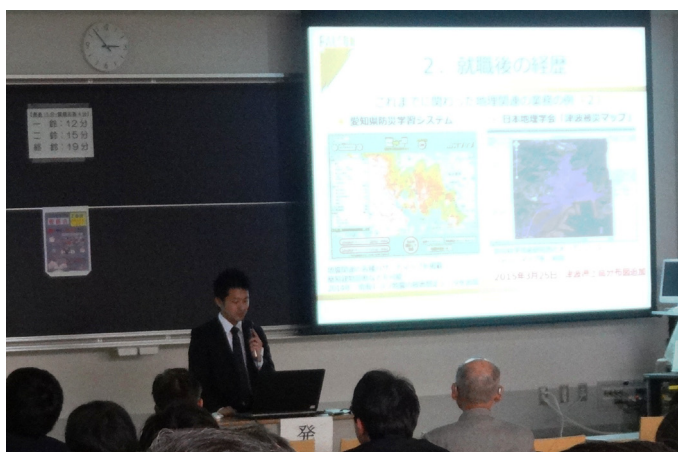
2003年に筑波大学大学院博士課程を中途退学し、総務省消防庁に入庁し、現在は消防庁防災情報室に勤務しています。仙台市消防局勤務時には東日本大震災の災害対応を経験しました。業務上、特に住民に密接にかかわるものは、自然地理学、人文地理学・地誌学の各研究手法を活用することが求められます。また、災害時に現場からの断片的な情報をもとに判断を迫られるような場合、平時から地域の状況をよく理解しておくことも重要です。



はたらく地理学—GISソフトウェア開発勤務者の視点から—

坂上寛之（株式会社ファルコン）

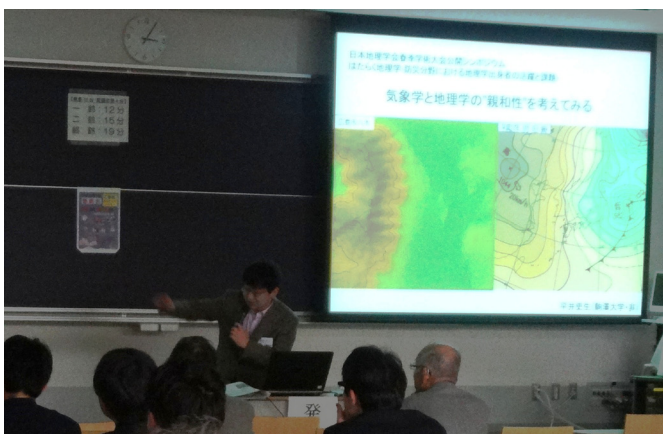
名古屋大学大学院を卒業後、2001年にGIS関係のソフトウェアを開発する企業に就職しました。現在は主にハザードマップを閲覧するためのwebGISを扱う業務に携わっています。GISソフトを用いたデータ加工などのスキルやハザードマップに関する知識が業務に役立っています。地理学は専門分野が多様ですのでロードマップは単純ではありませんが、学生は自分の適性・特性を把握し、それに合った職種・業種を目指すとよいでしょう。



気象学と地理学の”親和性”を考えてみる

平井史生（駒澤大学・非）

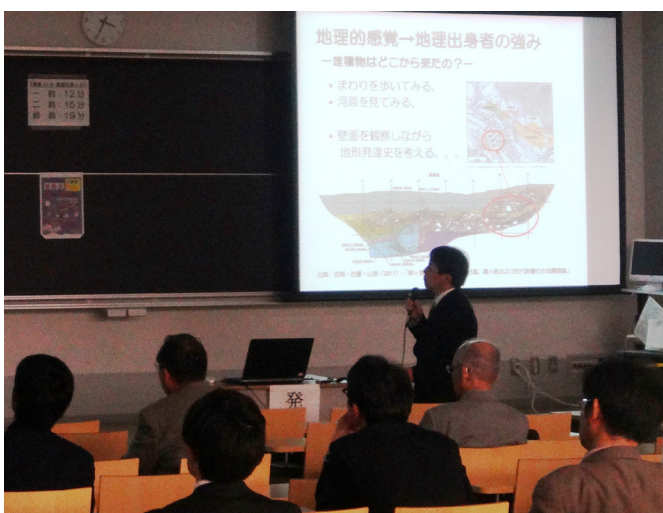
駒澤大学地理学科から筑波大学大学院環境科学研究科を経て、1991年から日本テレビに勤務し、気象解説を担当しました。現在はフリーで、大学の非常勤講師なども担当しています。地形図と天気図には類似性があり、気象解説では気圧の谷、気圧の尾根の気圧分布を地形に見立てた表現が使われます。一方、気象災害と地形にも密接な関係があり、特に局地的な現象は地形の影響を無視できず、地理学的なものの見方、考え方が気象災害の原因探求のヒントになることもあります。



地質調査における地理的感覚

佐護浩一（株式会社ダイヤコンサルタント）

学生時代には地形発達史に興味を持ち、大学院修士課程ではテフラに関する研究を行いました。その後地質調査会社に就職し20年余り在籍しています。地質調査の基本的な仕事は、主に建設事業のために地質を調べることですが、兵庫県南部地震を契機として活断層調査が業務に加わりました。活断層調査に重要なトレンチ調査では、調査地の選定や地層の解釈の際、地理的な感覚が発揮されます。地図から「周囲を見渡し読み解くことのできる力」が重要です。



フィールドワークとデスクワーク+ICT 地理屋はメディアに向いている：災害情報と報道

山口 勝 (NHK 放送文化研究所)

大学・大学院では変動地形学を学びました。1990年にアナウンサーとしてNHKに入社し、現在は放送文化研究所に在籍しています。災害の取材を多数経験しましたが、1999年の台湾地震の取材を契機に研究活動を再開し、2004年に博士を取得しました。現在の災害報道は、GISや空間情報技術の進展により革命的に変化しています。災害時には地域の人々は命や生活に関わる情報を求めており、その際には地域を考える地理の視点が重要になります。



総合討論

学生からの質問や、会場に来られていた元指導教員からコメントなどの情報交換の後、「地理学が社会に果たすべき役割と現状のギャップ」、「実社会でより必要とされる地理学に向けて」の2つの視点で討論を行いました。

